

岩見沢市における心理好転的デトックスを促すホスピス併設型病院及び周辺施設の提案

A Proposal of a Hospital with Hospice and Other Facilities in Iwamizawa Which Human Psychology Changes for the Better

正会員 ○池上帆乃香*
同 齊藤雅也**

○IKEGAMI Honoka*
SAITO Masaya**

* 札幌市立大学 大学院デザイン研究科 博士前期課程
** 札幌市立大学 デザイン学部・大学院デザイン研究科 教授

* Graduate Student, Graduate School of Design, Sapporo City Univ.
** Prof., School of Design, Sapporo City Univ., Dr. Eng.



図1 全体のイメージパース

設計背景・目的

療養施設で患者が一日の大半を過ごす病室は、光や熱環境に対する感覚が個人の病状差によって異なるため、自分好みの環境への調整は難しい。患者を取り巻く環境の好みの違いが療養生活でのストレスになっていると考えられる。

本研究では、病室における快・不快の環境要因をアンケートとヒアリング調査で明らかにし、その結果に基づいて、北海道岩見沢市の敷地を対象にホスピス併設型の病院及び周辺施設の計画を行なった（本デザイン提案は、基本・実施計画ではなく、卒業研究による提案である）。

病院利用者に対するアンケート・ヒアリング調査

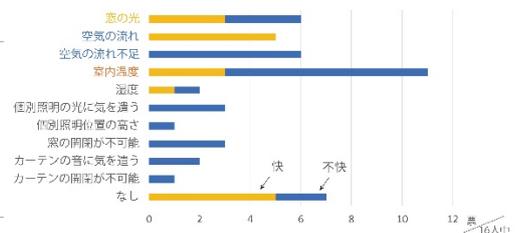
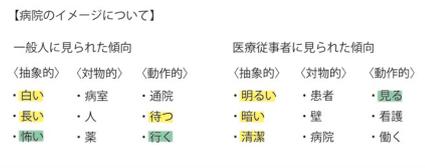
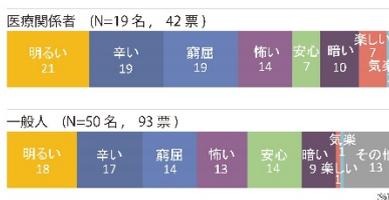


図2 「病院のイメージ」に対する回答の割合

図3 テキストマイニングを経たイメージ

図4 快・不快の条件 (2019/8/10-9/11)

アンケートを行なった結果、一般人・医療従事者ともに、病院のイメージは全体的に明るい・辛いが多い（図2）。一般的に「明るい」は良い印象を表すが、文脈の前後関係のテキスト分析によって、主として病院の白壁に対する「ネガティブなイメージ」であると予想された（図3）。また、患者へのヒアリング調査から、自らの操作で室内の環境調節をすることが「心地よさ」をもたらすと予想されたほか、病院生活中の快・不快の要素で最も多く挙げられたのは「室内温度」や「空気の流れ」に関する項目だった（図4）。

計画地 岩見沢市立総合病院の移設後跡地（予定）

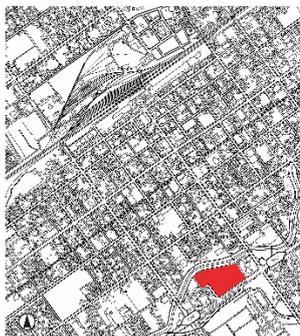


図5 対象地広域地図

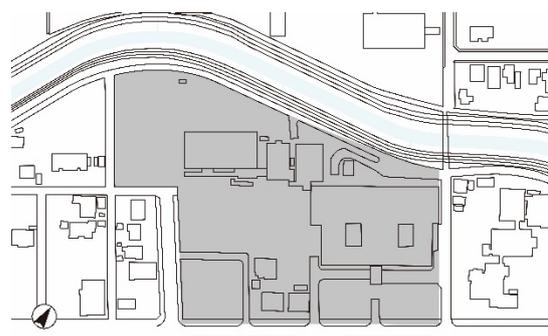


図6 敷地内配置図・平面図

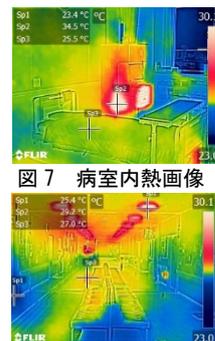


図7 病室内熱画像



図8 病室内写真

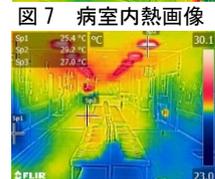


図9 待合室熱画像

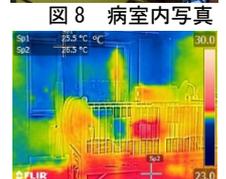


図10 小児病室熱画像

対象地は北海道岩見沢市の岩見沢市立総合病院の敷地で、少子高齢化が進む地方都市であるが、子育て世帯への支援を手厚く行なっている。現在 15 の診療科と 484 床の病床を有し地域の中核病院として利用されている一方、施設の老朽化が進み、移設案が検討されている。現状の課

所在地：北海道岩見沢市9条西7丁目2
 主な用途：病院
 敷地面積：19143 m²
 建築面積：3795m²
 延床面積：5250 m²
 キーワード：病院・ホスピス・心地よさ

Location : west 9-7-2 , Iwamizawa, Hokkaido
 Main Use : Hospital
 Site Area : 19143 m²
 Building Floor Area : 3795 m²
 Total Floor Area : 5250 m²
 Keywords : Hospital, Hospice, Comfort

視点を、施設の老朽化や感染症対応のニーズが多い小児科と産婦人科病棟の隣接、看護職用の指導室の不足が挙げられる。

設計趣旨

2020年以降に予定されている病院の移設後を想定し、内科・小児科・産婦人科を持つ附属病院とホスピス・託児所・調剤薬局・コンビニエンスストア・カフェ併設パーカリーを計画した(図11)。

全体のコンセプトは「巧みに操る安住の仮住まい」である。患者自身が暮らしてきた住宅同様に、仮住まいの空間で自分の思い通りに住まうという意味を込めた。



図11 敷地内配置図・平面図・植栽計画

病院は、子育て世帯への支援を中心としたものに合わせ、産婦人科メインの構成とした。ゆったりとした病棟と、従事者も過ごしやすいうちりのあるバックヤードを設ける設計を行なった(図16, 19)。

ホスピスは普段の生活に近い環境に置き、住宅のような生活感とともに自分の体調に向き合うことをコンセプトとした。内部は入れ子形状で、中心部に水場やスタッフルームなどを設け、各寸法を住宅の寸法に近づけた。それに対し、コアの外は土間や薪ストーブがある吹き抜けのセカンドリビングを設けて開放的な空間(図14)にし、外部からコアの空間にかけてはプライベートの度合いが増すように計画した。

託児所併設による子育て世代の住みやすさ向上を図り、スタッフルームから園庭まで一望できる大きさの窓を各部屋の壁面の低い位置に配置し、子供も部屋を見渡せるよう設計した(図17)。

カフェ併設パーカリーはカフェの床に段差を作りパーカリー利用者とカフェ利用者の視線が合わない設計をした(図20)。

コンビニエンスストアと調剤薬局は、1つの屋根を掛ける計画とし、建物の間を歩いて広場に抜けることができる。



図12 病院・ホスピス立面図

病室は平屋で寸法を住宅に近いものとし、通風・採光部屋の外壁は全面がガラス張り切妻や片流れの家が立ち並ぶ光景を表現した(図12)。また、病院内の特徴として、各病室間に休憩や読書に利用できる通風・採光部屋(図13, 15, 18)を配し、各患者の枕元にその部屋に面した窓を設けた。天井と床を木の板張りにし圧迫感を抑え、換気・採光調節を自分好みに調節できることによって充足感が得られるよう配慮した。



図13 通風・採光図書室

図14 ホスピス内セカンドリビング

図15 通風・採光部屋

図16 病棟廊下



図17 託児所保育室

図18 通風・採光部屋

図19 病室

図20 カフェ&パーカリー

敷地内の植栽(図11)は、北側にある利根別川の川縁にソメイヨシノが植えてあるため、開花時期が2週間ずれるカスミザクラを新たに植えた。さらに、ハルニレ、シンボルツリーのカタラを植え、水辺の植栽を施して利根別川に繋がる計画をした。また、人通りの多い場所にカタラを植え、落葉を踏ませて甘い香りが香る配置とした。

また、施設の経年計画として、託児所と保健センターの相互提携による育児環境や託児環境の充実を企画した。